大型放射光施設計画推進共同チームの動き 94－06

SPring-8　共同チーム

利用系　植木　龍夫

蓄積リング棟の建屋はその３分の１が完成した。引き続き建設は続行され、平成７年の半ばには全体が完成することとなる。

利用系の活動は、２本の先行開発ビームラインに加えて共同利用ビームラインの建設を行うための開発研究、設計などが活発になされている。

１、共同チームの全体の活動

昨年度には、蓄積リングに関連した加速器系の理研の研究者と技術者が播磨に移動した。今年度前半には入射器担当の研究者が原研から数名移動、下半期には全体の移動が行われる予定である。共同チームのヘッドクオーター（駒込事務所）は、今年１０月には播磨に移動する計画で関連した作業が行われている。

大型放射光施設計画推進共同チームの組織には昨年度からの大きな変更は行われていないが、チームに参加する研究者および技術者の数は拡大を続けている。ビームライン建設については、建設が決まったビームライン毎に建設チームを共同チーム内に組織して対応することになっているが、平成６年度に建設が推進される４つの共同利用ビームラインにチームが作られ共同チームサイドの担当者が決められることとなる。なお、当然のことではあるが、ビームライン建設を担当するチーム内の人員－光源、フロントエンド、光学系および検出器担当など－の拡充が図られている。挿入光源、フロントエンド、輸送系（主にモノクロメーター）および検出器などについて設計や開発研究などが行われている。

２、委員会活動

<u>大型放射光施設計画検討委員会</u>

大型放射光施設計画検討委員会のもとで利用小委員会がもたれ、特定利用ビームラインを受け入れるための基本的な枠組みを策定する作業を行っている。当初は、平成５年度内に結論を出し、特定利用ビームライン建設のための「特定利用ビームライン計画趣意書」を募る予定であったが、外部の関係する委員会で検討が行われているのでその結果を待っ

た上で趣意書の募集をすることとなっている。なお、この様な当初の予定変更に伴って、共同チーム内にデータベースを整備する目的で、特定利用ビームライン建設について国内の分について９月までに調査することとなった。

<u>ビームライン検討委員会</u>

１４名の委員で構成されるビームライン検討委員会は、平成５年度に提出された２０のビームライン建設提案書についてその技術的な検討評価を行っている。また、提案書の科学的な側面を中心に国内外の研究者から専門的な意見を求めた上で、平成６年５月１８日には２０の提案の内９件についてヒアリングを行った。６月には、２本の先行開発ビームラインを含む４本の共同利用ビームライン計画が、原研・理研大型放射光施設計画運営会議において決められる事となろう。今年度は、残りの６本程度の共同利用ビームライン建設に関して、昨年度と同様に共同利用ビームライン計画趣意書（Letter of Intent）の募集が行われることとなっている。

３、平成６年度Ｒ＆Ｄ計画について

平成６年度の利用系Ｒ＆Ｄは、

予算が前年度の三分の一になること

先行開発ビームラインの建設に入ること

挿入光源や光学系などと関連して多くの測定器や評価装置が必要とされることなどから、エンドユーザー的な個別課題をサポートする事は行われない。その成果の報告会に関しても、放射光学会を中心にして合同講演会が企画されているので、昨年までと同様なものとなるか明らかではない。

４、シンポジウムなど

昨年度に引き続き、６月１０日には挿入光源に関する検討会が理研・和光において行われることとなっている。また、利用者懇談会と共催で、光学系－要素としての光学系とレイトレーシングーに関する研究会が企画されつつある。

また、第三世代の放射光光源としてのSPring-8の特徴を生かした利用研究を共同チームとして立ち上げるために、「イメージング」に関する国際ワークショップが計画されており、来年２月か３月に神戸もしくはその周辺（SPring-8サイト？）で開かれる模様である。